

令和6年度 天理高等学校第二部 学校運営評価

評価 A:きちんと取り組んでいる B:ほぼ取り組んでいる C:あまり取り組んでいない D:全く取り組んでいない

1. 重点目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
①	(信条教育への取り組み) 神恩感謝の念を心に抱き、働く喜びと学ぶ喜びを体得できる生徒を育てる。	学校参拝を真剣に取り組む。	A	○教職員、生徒共々に、学校参拝について、多くが真剣に取り組むことができた。 ○生徒の中には、休日やお昼休みなどに自主的に神聖に行き参拝をしている者もいる。 △昇殿後の私語について、公共の場所であることをよく考えさせ指導していく必要がある。 △現状に満足せず、更なる教員から生徒への声掛けをしていく必要がある。
		教職員から生徒への挨拶・声かけを行う。	A	
②	(生きる力を培う) 知性を磨き、徳分を伸ばし、心身ともに健康で自立した生徒を育てる。	基本的な生活習慣を向上させる。	B	○集団生活のもと、仲間の大切さや協調性を育てている。 ○上級生が下級生に対して思いやりの心をもって、おさづけを取り次いでくれている。 △スマートフォンに依存傾向の生徒もおり、生活習慣に乱れが生じている。 △時間を守る、挨拶をするなどの基本的な生活習慣の指導がまだまだ徹底できていない。 △授業研究に十分時間を費やせていないときがある。
		他者への礼儀と思いやりを培わせる。	B	
		授業研究と実践の工夫に取り組む。	B	

2. 教育活動の目標と方策

	重点目標	目標達成の方策	評価	成果と課題 (○成果 △課題)
信条教育	(1)親神様、教祖にお喜びいただき、現代社会に必要とされる「道の後継者」を育てるべく、教職員自らが日々信仰実践に励むよう努力する。 (2)3年次の別席から「おさづけの理」拝戴に至るまでに「よふぼく」の自覚を持たせ、4年次には積極的に「おさづけ」を取り次ぐ姿勢が持てるよう努力する。	学校・学寮研修会、つとめ先懇談会を通じて、学校・寮・つとめ先の連携の強化を図り、おちばに伏せこむ姿勢を培う。	B	○研修会や懇談会を通じて、学校・学寮・つとめ先三者の連携を強化し、三位一体となって「道の後継者育成」に取り組んだ。 ○教職員、生徒ともに積極的に「おさづけ」を取り次ぎ、よふぼくとしてのつとめに励んだ。 ○多くの教員が職員月次祭まなびに参加し、勇んでつとめをつとめた。 △おさづけを取り次ぐだけでなく、「身上さとし」等の一言はなしができるよう、教理を学ぶ場を設けたい。
		教義科の授業の中で、「つとめ」の大切さを教え、大祭参拝・大祭行事・月次祭行事を通して報恩感謝の心の涵養を図る。	A	
		教職員自らが「おさづけ」の取り次ぎ、ひのきしんの実施、職員月次祭まなびの参加等の信仰実践に励む。	A	
学習指導	(1)生徒の能力・適性・生活条件に即した魅力ある教育課程の実施をめざす。	「わかる授業」の実践を目指して校外研修に参加したり、教科内での授業研修を行い、指導技術の向上をめざす。	B	○電子黒板の利用が定着し、視覚に訴えるわかりやすい授業を意識して実践できた。 ○新教育課程実施に対応するため、教科内で試行錯誤を続けながら日々研鑽を積んでいる。 ○基礎講習等で調査対策を行い、数学基本講習等で学習支援を行っている。 △校外研修を含め、研修時間の確保が非常に難しい状況である。 △生徒の学習意欲を高めるため、更なる創意工夫が必要である。
		基礎・基本の定着の徹底のため、各教科で、課題を与えたり講習を施したりする。また、「確かな学力」を育成するうえからも、全学年の「校内模試」の実施により、さらに学習意欲を高めるようつとめる。	A	
進路指導	(1)生徒の希望進路を実現するために、本校および個々の実情を踏まえた指導を行う。 (2)社会に出てからも通用する学力・教養を身につけさせる。	自らの進路について早くからしっかりと考えさせる。(将来を見据えた科目選択を含む)	A	○4年生学級担任を中心に、生徒一人ひとりに応じた丁寧な進路指導が展開された。また担任や生徒の要望に応じ進路指導部として必要なサポートをすすめた。 ○進路希望調査や説明会などの実施により、早い学年から将来を考える機会が増えた。また3月の進路ガイダンスは、進路を具体的に考えるきっかけになっている。 ○進路指導部と教務部が連携して、生徒の進路実現に向けた選択科目の指導ができています。 △ガイダンスや説明会に加え、各教員が早くから個別の進路指導ができるよう情報を提供できる体制をすすめたい。 △進路について考える機会をどのように活用し、意識付けにつなげていくか、また日頃の学習の大切さをどう感じさせていくかが課題である。
		授業はもちろん、基礎講習・進学講習の充実を図り、全国レベルの模試の積極的受験を促す。	B	
		進学先・就職先の情報を提供する。	A	
人権教育	(1)「陽気世界」実現のために「天理教の教義」の実践を通し、あらゆる差別意識の変革をめざす。	日頃の活動から研鑽に励み、個々の人権意識を高めるようにつとめる。	A	○人権研修等により、以前よりも人権意識を高めて生徒と接することができるようになった。 ○毎日必ずクラスの生徒全員に声をかけ、小さな変化にも気づけるようになっている。 ○人権ホームルームでは、生徒が主体的に考えられるよう、内容や授業形式を工夫して取り組んだ。 ○人権行事等、講師を招いて講演会を行うことで、生徒の人権意識を高めることができた。 △生徒一人ひとりの人権を大切にするために、より具体的な取り組みを組織的にすすめる必要がある。 △問題のない生徒に対しての声かけや心配りができていなかったように思う。 △生徒の何気ない言動の中に、人を傷つける言葉を遣う者がおり、絶対に許さないという態度で指導しているがなかなかない。 △様々な人権課題に関して、教員として研鑽をさらに積み、学びを深めたい。 △人権ホームルームだけでなく、人権教育がすべての教育活動の根幹であるという意識を、まずは教員間で広げていきたい。
		あらゆる教育活動において、人権に配慮した指導を行う。	A	
		生徒個々の様子や変化に気を配り、一人ひとりを大切にしている取り組みを進める。	A	
ひのきしん生指導	(1)4年間のおちばへの伏せこみを通して、よふぼくとしての自覚と自信を培い、お道の御用に、また、社会に貢献できる人材の育成をめざす。	「つとめ先訪問」を通して、つとめ先と学級担任および学年との連絡を密にし生徒の育成に資する。	A	○ひのきしん生指導部を中心に、うまく連携を行うことができています。 ○生徒個々の抱える一つ一つの事象について、世話課・学校本部・一れつ会ともつとぶさしに情報を共有し、迅速かつ丁寧に解決の糸口を図っている。 ○生徒が勇んでひのきしんをつとめられるよう、環境整備はもちろん、生徒自身の心の成人を促すべく、関わる大人(よふぼく)への研修にも力を入れた。 △つとめ先での問題に際して、慎重に対応し過ぎたため遅れることがあった。大人の事情ではなく、生徒の心と体を念頭に置き、対処していきたい。
		つとめ先で生じた生徒の諸問題に対し、つとめ先に適切な対応をお願いする。	A	
生徒指導	(1)基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上を図り、生徒が自らを律し、自立した生活を送ることができるよう支援する。 (2)課題解決や自己実現に向けての自己指導力を高め、集団における個々の在り方や役割・責任などについての自覚を促す。 (3)教員間の連携を強化し、問題行動の予防と指導の一貫性を図る。 (4)個人および集団の安全についての意識の高揚を図る。 (5)いじめや暴力の予防と早期発見・組織的対応を強化し、根絶を目指す。	HR活動、教科指導、寮、学校行事など、あらゆる場面ですべての教員が生徒指導を実践する。	B	○日頃の声掛けにより、問題を未然に防ぐことや大事に至ることを防ぎ、生徒の規範意識の向上にも繋がっている。 ○時間厳守の態度や身だしなみ等生徒の規範意識向上に関して積極的に啓発や指導ができた。 ○学級担任や学年にとどまらず、寮や部活動等と連携を図りながら生徒の指導ができています。 ○生徒一人ひとりについて、気になることは学年・寮・つとめ先・保護者と情報を共有し適切に連携することができた。 ○学年で服装点検や自転車点検を定期的実施した。 ○夜間の下校指導は自転車の乗車マナーの向上と安全確保に繋がっている。 ○年2回のいじめアンケートは、直接声をあけることのできない生徒の訴えの場になっているとともに、問題行動やいじめの抑止力になっている。 △自転車乗用中の事故が多数起こり、改めて安全指導を徹底する必要がある。 △服装・頭髪・化粧等の身だしなみの指導に関して、教員間のばらつきが顕著である。 △時間を守ることに、まだまだ徹底しきれていない。 △指導に学年間や教員間で差があり、生徒の不満に繋がっている。
		時間厳守の態度と挨拶の定着を図るため、授業時の遅刻防止や適切な挨拶を全授業において徹底する。	A	
		教員間や学校・学寮・保護者等との連携を強化し生徒理解や個々の課題の共有を図るため、学年会や生徒指導部会を定期的開催するとともに、個人面談や日頃の声かけを通して生徒観察に努める。	B	
		集団における責任感や自己有用感を向上させるため、ホームルームや諸行事、授業における係などの役割を確実に遂行させる。	B	
		服装や頭髪等、身だしなみの乱れについては、すべての教員がその場で指摘し、速やかに改善させる。	B	
		自転車通学者集会の実施や登録時の点検等の安全指導を徹底するとともに、定期的な下校指導を実施する。	A	
		安全・防犯・防災等についての講演・講習等を積極的に実施する。	A	
特別教育活動	(1)学校生活の充実をはかるために積極的に活動できる心豊かな生徒を育てる。 (2)部活動に積極的に取り組み、主体的に行動できる生徒を育てる。	行事を通して生徒の自主性を高め、達成感を得られる活動の工夫と充実を図る。	A	○学校行事等に主体的に取り組む、達成感を高めることができた。 ○各活動で責任感を持って、積極的に役割をこなすことができた。 ○部活動の入部率が高く、且つ熱心に取り組んでいるため、多くの部活動で好成績を残している。 △部活動に入部していない生徒や、部活動を途中でやめる生徒の増加傾向が見られる。 △人間的成長を促すために、更なる工夫が必要である。 △行事に関しては生徒や教員の負担が大きいものもあり、その在り方等を検討すべきである。
		活動の具体的な目標を明確にし、継続して努力させる。	A	
		活動を通して役割を自覚させ、責任感を培わせる。	A	
学級経営	(1)相互の受容と共感によって親密な人間関係を築く。 (2)各自が自分の役割を果たし協力してクラスに参画する自主的、実践的な態度を育てる。 (3)生徒一人ひとりに積極的に関わることによって生徒の個性を理解し、学級経営や生徒指導に活かす。	年間計画にもとづいて学級企画ホームルームを実施し、クラスへの帰属意識と自尊感情を育てる。	A	○各学級担任同士はもとより、学年内で上手に連携を図り育成に携わることができた。 ○学級内の役割を責任をもってやり遂げることの大切さを、生徒に十分に理解させることができた。 ○生徒の日々の変化をしっかりと見極め、学年職員ばかりでなく関係職員全員で生徒対応にあたった。 ○学校行事・学年行事など、生徒が中心となって活動がよくなっている。 △人権HRをもっと充実していく必要がある。 △2学期はじめ(9月)頃に気持ちの切り替わり傾向にあるため、学校全体で策を練る必要性を強く感じる。 △姿で見せる育成が重要であるとの意識をより強く持つ必要がある。
		学級内の様々な役割を、各自が責任を持って果たすことにより、団結力のあるクラスを育てる。	A	
		個人面談を計画的、また必要に応じて随時行ない、生徒理解に努める。	A	
教育相談	(1)校内の各分掌や学寮、つとめ先、保護者、教会などと連携しながら、生徒が自身の成長課題と向き合い、主体的に解決していくことができるよう支援を行なう。 (2)生徒一人ひとりの自尊感情を高めるために、支持的・支援的な態度で接する。 (3)学級経営の充実と合わせて、生徒のこころの健康を増進させる。 (4)教育相談に関する教職員のスキルアップを図る。 (5)生徒の支援の在り方について、共通認識を持ち、組織的な対応を図る。	面談や日々の活動を通して、一人ひとりの生徒が抱える問題や課題を関係各所と共有し、担任一人が抱え込むことなく、それぞれの支援の在り方について組織で対応する。	B	○学級担任や寮幹事を中心に、生徒の思いを傾聴し問題解決に努めた。 ○生徒一人ひとりの躰や課題について、教員間で共有し学年や各分掌・寮などと連携して組織的に対応する体制が構築された。 ○悩みや課題を抱える生徒に対して、SCや健康管理室のカウンセラー(Co)に繋ぐことができた。 ○定期的に連絡会を開くなど、SCや学校管理室のCoと情報を共有することで、より深い生徒理解に繋がりが、適切な対応をすることができた。 △教育相談についての理解を深めるための研鑽が必要である。 △校内での支援体制はまだ改善の余地がある。 △カウンセラーをはじめ、学校関係者には相談したくないという生徒へのアプローチが困難である。 △相談体制は整ってきているが、それを課題解決・問題解決に繋げていくことが課題である。 △発達的な特性をはじめ、個々に応じた対応により専門的な知識が必要になっていて、学校だけでは、抱えきれない生徒も増えてきている。
		授業中、参拝時、休憩時間、夕食休み、放課後などあらゆる時間において積極的に生徒とコミュニケーションを図る。またその際は支持的な声かけをする。	A	
		ホームルーム活動において、個々の個性や特性を認め合う姿勢を養い、それぞれの役割を持たせることで自己有用感を育てる。	A	
		生徒のこころの保持増進を図るため、学校が窓口になり健康管理室やSCを有効に活用する。その際、生徒の個人情報保護に努める。	A	
		職員研修を定期的実施するなど、各種研修に積極的に参加し、教育相談に関する理解を深める。	A	
学寮	(1)学校・寮・つとめ先の三位一体の生活のなかで、学校・つとめ先・保護者との連携を強化し、互い立て合い助け合う心を持って、生かされている喜びを素直に受けとる生徒を育てる。 (2)身上かしのもの・かりもの・自由のご守護に感謝し、進んで「早起き・正直・働き」を実践させていただき生徒を育てる。	学校・学寮研修会、教職員研修会を通じて、職員相互の関係を密にし、連携を強化する。	A	○学校、つとめ先との連携が図れている。 ○幹事が積極的に「おさづけ」を取り次いでいるため、生徒にとって信仰が身近なものとなっている。 ○生徒に親身に寄り添った。 ○生徒は寮生活を通して、基本的な生活習慣を身につけながら協調性や人間性を高めている。 △職員相互の関係は取れていると思うが、精神面でのフォローを支援する必要がある。 △寮・学校間での意見交流の場を増やしたい。 △積極的に「おさづけ」の取り次ぎをしていけるようにしたい。 △建物の老朽化に伴う不安要素が多い。安心感をもって指導できる体制づくりが急務である。 △余裕がなく資質を上げるための研修等に参加することができなかった。
		進んでおさづけを取り次ぐ。	A	
		保健部・教育相談室との連携を深め、精神面でのフォローを行い心身ともに健康的に寮生活が営めるよう支援する。	A	
		生活指導員としての研修を継続的に行い、学寮職員としての資質を高める。	A	